

| | | | |
|-------|----|-----------|--------------------------|
| 9 | 尾北 | 岩倉市立南部中学校 | フリガナ タムラ ユウト 氏名 田村 優斗 |
| 分科会番号 | 3 | 分科会名 | 社会科教育（中学校） |

研究題目

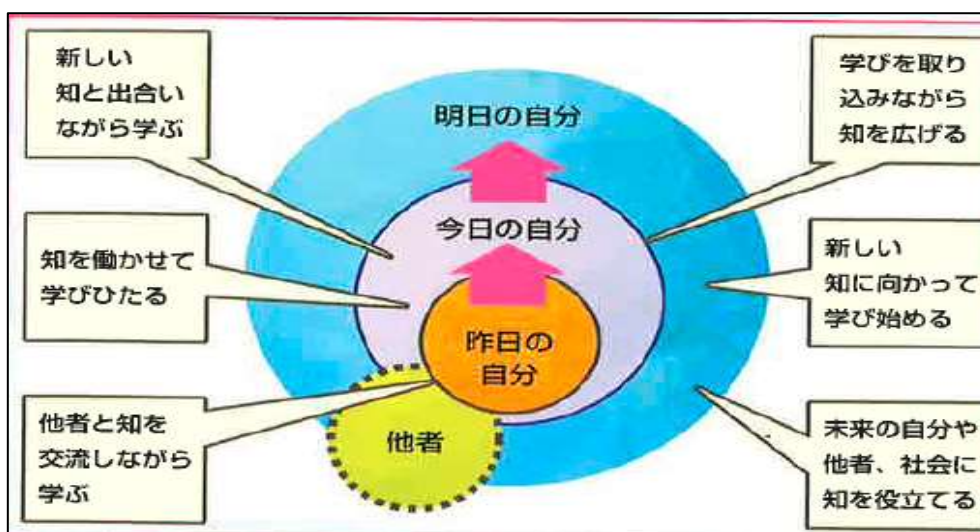
「深い学びを実現し、公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科学習」

1 はじめに

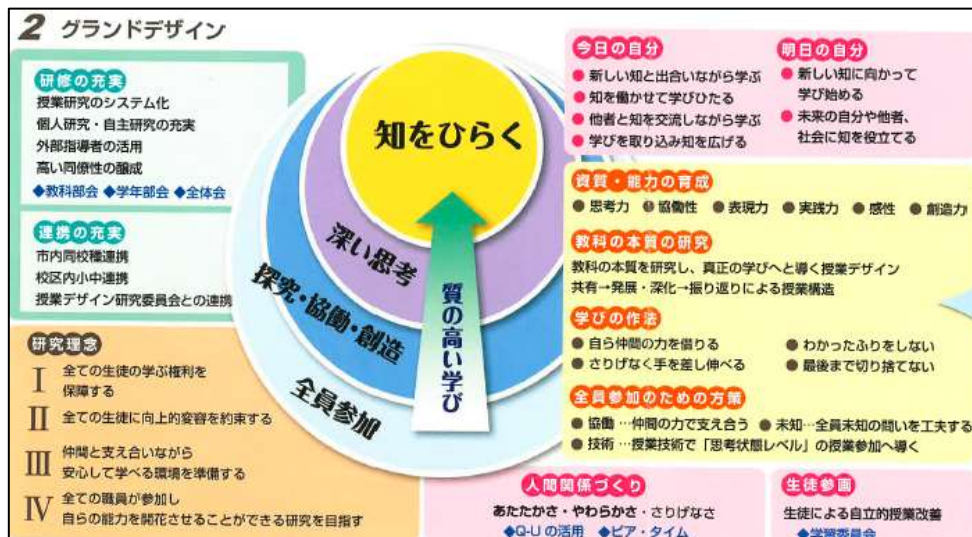
学習指導要領の改訂に伴い「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、これまでも多くの実践が重ねられてきた。令和3年度に出された中央教育審議会の答申（『令和の日本型教育』の構築を目指して）では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながることを示された。また、第4期教育振興計画では、2040年以降の社会を見据えた教育政策のコンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の二つが掲げられた。現行の学習指導要領においても「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」とある。

また本校では「知をひらく」という主題のもと現職教育を行っている。「知をひらく」とは、未だ知らない新しい知と出会い、それを自分の中に取り込みながら何かを認識し、知を広げていくことである。学びは、「昨日の学び」の外側で生まれるのであり、人が夢中になって学ぶ（学びひたる）のは、「今日の自分」が未だ知らない知と出合っているときである。自分とは異質な他者との交流をすることで、他者の知を取り込むことができるとともに新しい知を生み出すこともできる。【資料1】

これらの考えをもとに【資料2】のような研究デザインの実践を進めている。また、本校では全校で、コの字隊形を基本としており、グループ隊形が主体となって常に仲間との関わり合いをもとに全員参加の授業を目指している。課題解決のために学びひたる中での、他者との対話や資料との対話を通して新たな知と出合わせたい。ただ単に知識を得るだけでなく、得た知識をもとに、これから自分がどのように社会参画をし、個人も社会や集団もよりよい状態になるか考える力を養いたいと考えている。



【資料1：「知をひらく」の構想図】



【資料2：現職教育でのグランドデザイン】

生徒は社会科は覚える教科の認識が強いと考える。こうした状況から脱却するために、教科書の内容から少し離れた内容であったり、身近なことを学習課題に設定したりすることで、生徒一人一人が探究し、他者と協働して深い学びに向かうことができるのではないかと考えた。

3 研究の構想

(1) 目指す生徒像

生徒の実態と現職教育の社会科の目標を踏まえて、目指す生徒像を次のように設定した。

- ① 様々な社会的事象を通して、現代とつながる課題を探究し自分なりの社会参画の仕方を考えることができる生徒
- ② 自己だけでなく他者や資料との対話を通して、協働的に学習する意欲をもち自己の学びを調整することができる生徒

(2) 研究の仮説とてだて

① 研究の仮説

ア 目指す生徒像①に対して

できるだけ身近な社会的事象を取り上げれば、生徒は意欲的に課題解決に取り組み自分事として学習ができるだろう。

イ 目指す生徒像②に対して

効果的な内容を課題として提示することができれば、他者が、持っている情報を自ら取り入れようとし、自然と協働的な学びが生まれるだろう。また、他者の学び方も参考にすることで、自己の学び方も調整することができるだろう。

② 研究のてだて

ア てだて1 仮説①に対して

単元全体に見通しをもつため、毎授業における課題設定を常に現代の課題とつなげて提示することで、生徒は自然と過去と現代を関連させて取り組むことができると考える。

イ てだて2 仮説②に対して

どの生徒も同じスタート地点から開始できるよう、教科書に載っていない資料の提示や題材を用意す

ることで、個人ではなくペアやグループでの交流をすることで解決に向かう機会を設ける。また、意見をタブレットに提出した際も回答共有を行い、より多くの意見に触れられるようにする。

4 研究の実際

(1) 社会的事象を課題に設定し、自分事として考える活動を組み込んだ学習指導案。

| 段階 | 学習活動 | 協働 | ○教師の活動 ※全員参加の方策 |
|---------------------|--|----|--|
| 共有 20 分 | 1 13枚の国民の権利と義務のイラスト【資料4】を見て、人の権利と義務について考える。 | G | ○イラストをタブレットで配布する。 ※日本語の難しい生徒には個別に声を掛ける。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">共有課題 国民にはどんな権利があるだろう？</div> | | |
| 発展 深化 25 分 | 2 解答を配り、それぞれの権利について知る。 ・○○の自由 ・平等権 ・社会権 | A | ○※タブレットで配布をし、全員が見られるようにする。 ○イラストのどの部分が各権利にあたるのか考えるよう促す。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ジャンプ課題 自由・平等・社会権は普段どんな場面にあるだろう？</div> | | |
| 振り 返り 5 分 | 3 自由権・社会権・平等権は普段の生活にどう活かされているか考える。 ・居住の自由・・・好きな場所に引っ越しできる。 ・学問の自由・・・好きな高校や大学に進める。 | G | ※思いつかない生徒には、学校生活で考えさせてみる。 ○一つの権利に複数の場面が想定できるように各グループに声を掛ける。 |
| | 4 本時の振り返りをする。 ・憲法の3原理も踏まえ、人権について自分の考えを説明してみる。 | A | ○評価規準を示すことで、より深く考えるように促す。 |




【写真1：他者の意見を見る生徒】



【資料3：国民の権利と義務のイラスト】

見通しをもとう！

見通しは、課題に対してどのように解決するのが作戦を立てたり、調べたいことや考えたいことを考えたりする時間です。その見通しがよかったのが振り返りにも生かしましょう。




- ①よそうキー：こうなりそうだな。だいたいこのくらいになるかな。
- ②みかたキー：この視点で調べれば分かりそう。
- ③ほうほうキー：この方法が使えそう。これを調べればできるんじゃないかな。
- ④じゅんばんキー：初めに～をして、次に～をして、最後に～すればできそう。

【資料4：見通しキー】

ふり返りを書こう！

ふり返りはみんなの成長記録。今日の自分の「学び」を文で表してみよう。
次の中から、3つのキーを使って書いてみよう！



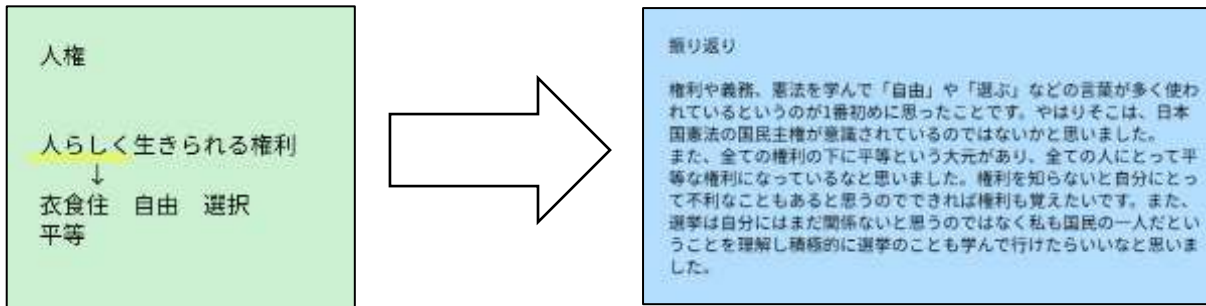
- 👁️ みかたキー：○○に目をつけて、～の奥方で
- 💡 ひらめキー：…と比べて、まとめて、分けて、…とつなげて
- 🗨️ なかまキー：○○さんの意見で、○○さんは、
- 🏆 のびたキー：わかるように(できるように)なりました、前と比べて
- ❓ ハテナキー：～に疑問をもちました、わからないのは |
- 🌱 ミライキー：これからは、～してみよう、次の時間には

【資料5：振り返りキー】

指導案では、学級全体で共通理解しておきたい内容（共通課題）から授業が展開されている。多くの場合は、学習内容の導入や既習事項の確認である。その内容を使って、少しずつ本題へ移っていく（発展・深化）。この段階では学習している時代背景や国際関係、さらに既習の内容を最大限に活用して、作業に取り組む。生徒たちは、これまでのノートを振り返って調べたり、グループ内の級友に確認しながら課題に取り組んだりしている。また、習熟度が低い生徒には、気づいたことを箇条書きで書かせるなどして少しでも意見をもち、グループ内で話し合うきっかけを作る。そうすることで、授業への参加や意欲を保つことができるような授業づくりに取り組んでいる。

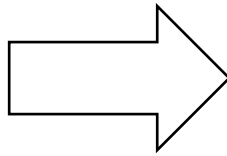
授業では、資料を配付したあと生徒自らグループ隊形をつくっていた。自ら他者の知と出合う機会を得ようとした行動である。他者の知と出合うことによって、新たな視点や気づきを得ることで考えて課題解決に向かっていた。答え合わせや考えを共有する際には「だから自分で好きな高校を選べる」と隣の生徒と話し合う姿が見られたり、「これも権利なのか」と驚いたりする生徒もいたりした。他にも高度経済成長の授業では、自分では思いつかなかった考えを聞いて、意見を改めたり、さらに深めたりした様子が振り返りの記述で見られた。

【資料7】発展・深化では、より身近なことへと視点を移したため生徒は意欲的に活動を行っていた。人権の授業で、単元のはじめでは権利として覚えようとするのが難しく感じる生徒が多かったが、身近な事柄と関連づけをすることで「覚えること」から「つなげること」へと変わり、実生活に生きてくると感じる生徒が多かった。【資料6】は単元のはじめに聞いた発問と同じ内容を単元の終わりに聞いた生徒の振り返りの変容である。



【資料6：公民の授業における生徒の学びの変容】

- 日本は復興するために生産を重視した政策をとっていた。だから、とにかく日本は復興したことを強調したくて急いで成長を目指したのだと思う。
- 他の班の意見も気になるので次回聞いてみたい。



- A班の班のオリンピックに備えて成長を急いだという意見を聞いて1番納得した→アジア初のオリンピックだったしオリンピックは世界の人が見るものだから良くも悪くも日本へのイメージが付くし認知度も上がるからオリンピックに備えて急いだのかな、とも考えた
- 三種の神器はどうやって、どこから生まれたのが気になった

【資料7：他者の考えを聞いて自分の考えを見直した生徒の振り返り】

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

第3学年の授業の中でこの研究を進めてきたが、1、2年生で見方・考え方を継続して行ってきたことにより、生徒自らが見方を意識して課題に取り組めるようになったように思われる。初めは振り返りを書けなかった生徒も振り返りキーを4月に配り、参考にして書き続けてきたことにより、苦手意識を克服した生徒が増えた。

仮説①について、身近なことを題材に授業に取り組むことにより、ただ覚える教科という認識から、実生活に役立つ教科へと認識が変わってきたように思われる。実際に生徒へ行ったアンケート【資料9】からも、「公民は身近なことを知ることができて楽しい」や「今までで知っていることと関連付けることができて面白い」という意見が多かった。やはり、身近な課題であれば生徒は主体的に学ぼうとすることがみえた。

仮説②について、生徒全員が未知の課題に取り組むことにより自然と協働的に学ぶ姿が見られた。生徒へ行ったアンケート【資料10】でも、「グループで課題に取り組むことは好きか？」という設問に対して、約8割の生徒が「好き」もしくは「どちらかといえば好き」と回答した。その理由では「みんなが違う意見を出すことで、様々な角度から課題を見ることができる」と答えていた。このことから課題を共有し共に解決へ向かう過程で関わり合い、他者の学び方を参考にして自己の学び方を工夫する生徒の様子が見られており【写真2】、充実感や達成感をもった生徒も多いと思われる。

(2) 研究の課題

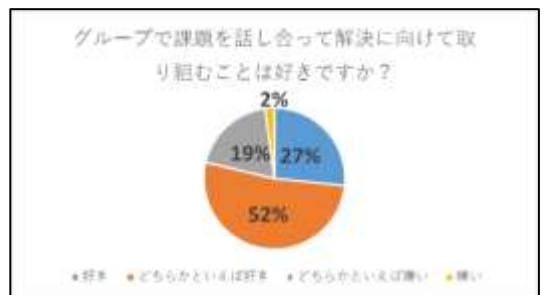
今回の研究では、公民的分野でグループ学習を取り入れ、他者から得た知識をもとに現代に抱える課題を解決するための手段を考えたり、ウェルビーイングの向上のために何ができるかを考えたりする力の育成を目標としてきた。しかし、歴史的分野や地理的分野にはつなげられず、総合的に考える力の育成ができなかった。



【資料8：見方キー】



【資料9：アンケート結果1】



【資料10：アンケート結果2】

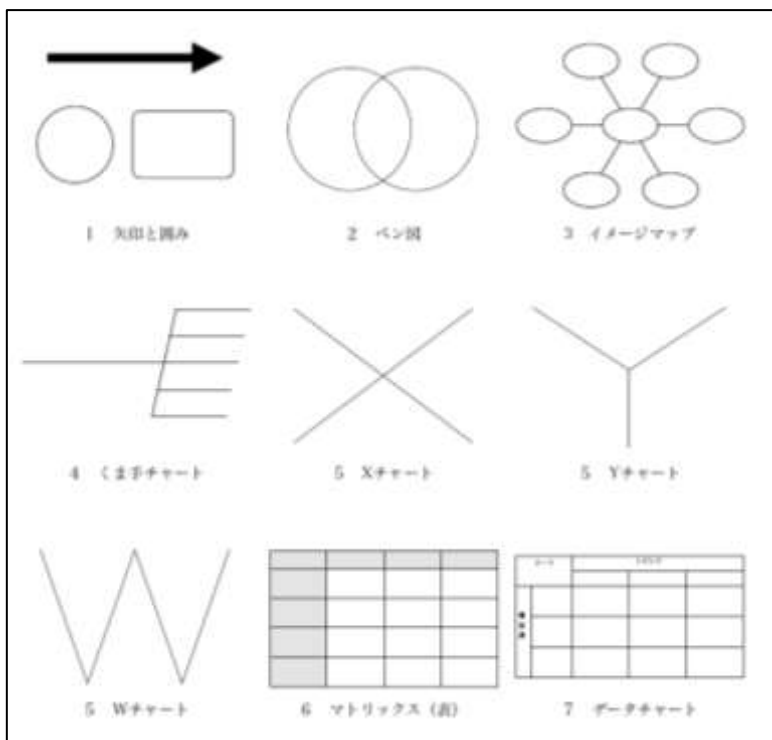
歴史的分野と地理的分野だけでは、社会科が嫌いな生徒が多数であった。【資料 11】理由としては、「覚えるだけ」という意見が多かった。公民的分野では現代につながることで興味をもち実生活でも生かそうとする姿が見られていたが、歴史的分野ではなかなか見られなかった。過去に起きたことを想像するだけでそこから学び、これからに生かせることを考えるまではいかなかった。歴史的分野や地理的分野においても、現代につながる事象を課題におき、探究できる授業を継続的に行いたい。また、生徒自身の考えを整理するために思考ツール【資料 12】を使いまとめていたが、上手な活用が行えず、まとめることがゴールになっている生徒もいた。まとめたものを使ってさらに深い思考に向かうため、場面にあった思考ツールを生徒自身が選ぶ力をさらにつけていく必要があると感じた。こうしたことができて学びの自己調整が成り立つと考える。単元を通して学び方の振り返りも取り入れた授業を行いたい。



【写真 2：学び合いの様子】



【資料 11：アンケート結果 3】



【資料 12：思考ツールの例】

6 おわりに

今回は社会科の授業の研究でありながら、「ウェルビーイングの向上」というところにも焦点を当てて行った。この研究を通して、生徒は社会科を学ぶ楽しさや、今の自分の生活に生かせることの気づきを味わっていると感じた。彼らが、社会を担う頃には、今よりさらに多様で技術が進歩している社会になることが想像される。自分の意見や意思を強くもち、相手に伝えること。さらには、多角的・多面的に考え周りの意見を取り入れながら、個人だけでなく集団がよりよい状態になるようにしていかなければならない。この素地を授業や学校生活内で養っていききたい。少なくともただ出来事や語句を覚えるだけが社会科の授業ではない。日本と世界、さらには自分といった 3つの視点で社会的事象を考えていくことが個人のひいては集団のウェルビーイングの向上につながるきっかけになるのではないかと思う。世界の気候や歴史、政治体系などを知ることで改めて日本の良さを知ることができる。さらに日本をより良い社会にしていきたいという主権者意識も身に付け、自ら考え行動できる生徒の育成にあたりたい。そのために、今後もさらなる創意工夫をし、生徒が学びひたることのできる授業を行えるよう努力していきたいと思う。